

紙上講義

ここでは実際に入試問題に出た和歌中心の題材を選んでみました。設問は省略しています。

この紙上講義のポイントは次の点です。

- ①古文で何をどう勉強すればいいか理解する。(アゴラ古文)
- ②古文を現代語にたんに置き換える(これを古文の勉強と勘違いしている生徒が多いです) 作業が古文学習ではないことを実例を通して理解してもらう。
- ③「場」(条件)の設定について。
- ④「係り受け」(主-述、地の文-和歌、接続助詞の媒介 etc のつながり方)
- ⑤「視点」(和歌の詠者の視点)
- ⑥「色気」(人間が本来持つ感情のゆらぎ)を知って自分の身近な世界にして欲しい。

これ以降の内容は体験学習時に説明を加えていきたいと思います。

次の文章は「とはずがたり」巻四の諸国遍歴の記の一節で、御深草院御所を追放された後、**出家**して尼となった作者が、**鏡の宿**から赤坂の宿を経て**八つ橋**に着いたときのものである。

前書きによる「場」の設定

- 季節
- 時間
- 場所(地名)
- 人物の属性

陽もくれる頃なので、契りを求めてあちこちをさまよう様子が暮るるほどなれば、遊女ども契り求めてありくさま、**憂かりける世のならひ**

世の常だなあ  
かなとおぼえて、いと悲し。

促されて  
明けゆく鐘の音にすすめられて出で立つも、あはれに悲しき**に**、

「係り受け」

接続助詞「に」の働き

私がこうして立ち寄ってみても私の心に残る、まさに憂き世を思わすあの面影まではいくら鏡の山とはいえずつせないだろうよ。

「視点」(詠み手)

 立ちよりてみるとも知らじ、**鏡山** 心のうちに残るおもかげ

かく、詠みたり。

経つうちに  
やうやう日数ふるほどに、美濃の国赤坂の宿といふところに着きぬ。

文脈で捉える古語

慣れない旅も日を重ねるにつれ  
ならはぬ旅の日数もさすが重なれば、

ここ赤坂の宿に  
苦しくもわびしければ、これに今日ほどどまりぬる**に**、宿のあるじに若き遊女

姉妹あり。琴・琵琶など弾きて

情あるさまなれば、  
宮中にいた頃が自然と思い出され、  
昔思ひ出でらるる心地して、  
樂器を演奏させたところ  
九献などとらせて遊ばす

チャレンジ

この文の「係り受け」を考えてみよう。

姉と思われる方が  
る**に**、二人ある遊女の姉とおぼしきが、

気分をそらせているけれども  
いみじく物思ふさまにて、琵琶の撥にてまぎらかせども、涙がちなるも、

自分と似た境遇

身のたぐひにおぼえて目とどまるに、これもまた

この遊女もまた

ふさわしくない涙

墨染の色にはあらぬ袖の涙

研究

キーワード (墨染・あらぬ涙・出家・西行の和歌・出家の理由)

を、あやしく思ひけるにや、杯すゑたる小折敷に、書いてさしおこせたる、

何を思い立ったのでしょうか

を思い立ったのは何故ですか？富士山の煙がどこに行くのか知りたいようにあなたのそのお心が知りたいです。



思ひ立つ心は何のいる~~そと~~も富士の煙の末ぞゆかしき

意外な歌の問いかけに、風情を感じて  
いと思はずに、情ある心地して、



富士の嶺は恋をするがの山なれば思ひありとぞ煙立つらん

「にや」

- \* ( ) の助動詞
- \* 「にや」( ) の省略

掛詞

「情と景の二重構造」

解釈

(遊女たちに)心を許したその心残りで 彼女たちを別れ置きがたい気持ちがするけれど そうする  
馴れぬる名残は、これまでもひき捨てがたき心地しながら、さのみあるべきな

わけにもいかないので  
らねば、また立ち出でぬ。

八橋といふところに着きたれども、水ゆく川もなし。橋もみえぬ<sup>見えないこと</sup>さへ<sup>までも</sup>

(それゆえに)  
友もなき心地して、

何故「友もなき心地」と表現したのだろうか。

私は出家してもそれでもやはり あれこれと物思いするけれど、その八橋はその跡さえもない。  
われはなほ 蜘蛛手に 物を思へども その八橋は跡 <sup>だに</sup> もなし

副助詞「だに」「さへ」

「だに」「さへ」について学びましょう。

- (注) 1 九献一酒または酒宴。  
2 小折敷一片木を折り曲げて縁を作った盆の小さいもの。  
3 蜘蛛手—蜘蛛の足が八方に出たように物が八方に分岐した状態→あれこれと心乱れるさま。

「注」は重要です。  
特に和歌の解釈でヒントに  
なります。

以上終了